

シニアカー年産能力7割増

セリオ、新本社・工場

浜松市 近距離移動ニーズ照準

【浜松】セリオ（浜松市北区、望月誠社長）は、ハンドル形電動車いす（シニアカー）の年産能力を従来比約7割増の3000台に引き上げた。浜松市西区の本社と、静岡県磐田市の工場を浜松市北区に移転して集約し、新本社・工場として運営を始めた。工場は拡張した。設備投資額は15億円。高齢者が自動車運転免許を返納する機運の高まりや、コロナ禍での新しい生活様式の浸透によりシニアカーの需要増が高まると同社はみる。



移転拡張したセリオの新本社社屋（手前）と工場（奥）

工場は2階建てで延べ床面積約7000平方メートル。シニアカーの再約1・8倍に拡張した。開発で3人、製造で2人、事務などで3人の計8人を新規雇用了。まず年2000台を生産する計画。

本社内にシニアカーの展示スペースを設けた。工場と敷地内には傾斜や段差、坂路などで構成する試走路を設けて安全運転指導の社内研修を行う。一般利用者にも走行感覚を体

感してもらおう。

セリオの2021年6月期のシニアカーの売上高（レンタルを含

む）は前期比6・8%増の5億7000万円になる見込み。今後コロナ禍による生活様式の変化で近距離移動ニーズが高まっている点などを踏まえ、シニアカーの需要が高まるとみる。ほかにも電動アシスト付き自転車など、高齢者向けに需要

が見込める電動モビリティを開発する方針。移転前の浜松市西区の本社と再生工場、磐田市の生産工場は、親会社の川嶋（浜松市西区）から借りていた物件であり返却する。新本社・工場は自社所有の拠点となる。